



異次元の少子化対策に一律学校給食無償化検討？

当たり前前に提供されるはずの給食が

今年9月、広島県の給食事業者ホーユーが突然事業を停止し、提供していた学校や学生寮など70以上の施設で給食が停止となったニュースが話題となった。学校給食は子どもだけでなく社会に大きな影響を及ぼす「食のインフラ」だ。今、物価高の影響で子どもたちのお昼ご飯として当たり前前に提供されるはずの給食が危機に瀕している。

給食事業者悲鳴！

最近、給食から大きな楽しみの一つが消えようとしているらしい。「デザート系が少なくなつて寂しい。焼きプリンがなくなつた。デザートの種類がかなり少なくなつた」と、子どもたちの声。長引く物価高を背景に単価の高いデザートが大きく減らされているのだ。ある小学校ではデザートがない。それどころか、メインデッシュは小さなイワシ1匹だけとかなり質素。こうした変化に親は気づいているの

だろうか。子どもたちの人気メニュー、ハンバーグも使っている材料は、実は肉ではなく魚のアジ。アジはフライにするのが定番だが、揚げる油の高騰もありハンバーグにするという。ほかに野菜の浅漬けとご飯と味噌汁、牛乳も合わせてかかる費用は300円以下。ただし、全国平均はおよそ256円。それに比べてまだまだ余裕がある方だ。

この学校の給食メニューを管理している栄養士は「昔はサケ1^キ1500円くらいで買えたが、今は2200〜2500円に。サケの好きな子は多いが、使えなくなっている。変わりに比較的安いマスなどを使う」。さらに、値上がりの続く野菜については規格外の捨てられる野菜を使う試みも。まさに血のにじむような努力と工夫で提供されている学校給食。

現在、学校給食の多くを支えている外注業者の台所事情は苦しい。帝国データバンクによると、今年10月までに17件の給食事業者が倒産。2年連続で倒産件数が増加し、過去5年で最多ペースとなっている。その背景にあるのは、相次ぐ値上げだ。昨年以降、

